

B. 手のフォーム B-1 把握のフォーム

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

◆用意するもの: ①「検査指示」欄に示してある物品(一部は毎回事前調達)、②マット(習字用フェルト)

◆検者と被検者の標準位置(全項共通):被検者はテーブルに向かって椅子に腰掛け、対象手をらかな肢位で机上におく。検者は、被検者のほぼ横に自分の位置を決める。

◆物品提示と検査指示:

- 1)物品提示位置は、特に記載がない場合は正面机上とする。
- 2)物品を空中に提示する場合は、被検者がもっとも持ちやすい位置に、持ちやすい方向に向けて差し出す。
- 3)被検者は、一度持った後、位置補正をしてよい。
- 4)被検者はももとの習性により、期待と異なるフォームを示すことがある。その場合は検者が見本のフォームを示して同じようにできるかを確認し、「見本提示あり」に✓を記入する。
- 5)被検者が物品の位置をずらすなどの位置補正ができない場合はそれを手伝ってよいが、その場合は「物品の位置補正あり」に✓を記入する。(例:被検者が鉛筆の上のほうを掴んでしまったような場合、検者が掴み位置が下方になるように鉛筆を上へ引っ張り上げて位置を変えるなど)
- 6)被検者が非対象手を補助手として使えない場合にはその分を手伝ってよいが、その場合は「非対象手の固定の補助あり」に✓を記入する。

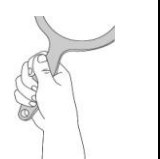


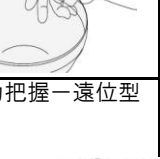
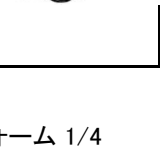
◆成績判定: 対象手のフォームについて以下の判定を行う(各課題の正常フォームを熟知していない検者は、あらかじめ自分および他の健常者でその課題の正常フォームを仔細に観察し、目を慣らしておく必要がある)。

なおフォームの定義は『鎌倉矩子(1989)、手のかたち、手のうごき、医歯薬出版』による。

- Good (G): 正常またはほぼ正常なフォームを安定して維持できる
- Fair (F): フォームに僅かな歪みがある、またはフォームの維持に努力を伴うが、機能に実用性がある
- Poor (P): フォームの歪みが著しい、またはフォームの維持が困難であり、機能に実用性がない
- Trace (T): フォーム形成の動きがある程度認められる
- Zero (Z): Traceのレベルに達しない

◆観察所見: 文章で記述。図の欄等にも適宜加筆してよい。

* 優位手とは被検者がもっとも使いやすくと感じる方の手

フォーム		検査課題			成績判定と観察所見		
		No	課題名称	物品提示と検査指示	対象手	右手	左手
						本来の(利き側・非利き側) (健側・患側) (優位手・非優位手)*	本来の(利き側・非利き側) (健側・患側) (優位手・非優位手)*
握力把握系	握力把握一標準型 PoS 	①	手鏡使用	手鏡の鏡面を下に向け、机上の上空で水平に、かつ柄が持ちやすい位置になるように差し出して言う:「この鏡にご自分の顔を映してください」。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	握力把握一示指伸展型 Pol 	②	ナイフ使用	机上のカッティングマットの上に、紙片(中央に折り筋をつけて開いたもの)を折り筋が前額面と平行になるように置く。さらにこの折り筋にそって定規を置き、ナイフ(刃を押し出しておく)を空中に差し出して言う:「この折り筋に沿って紙を切り離して下さい」。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	握力把握一鉤型 PoH 	③	水差し使用	垂直ハンドルつき水差しにあずき約200gを入れたものを対象手の前の机上に、また広口瓶(蓋をはずしておく)を正面机上に置く。「水さしの中のあずきを広口瓶に移してください」。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	握力把握一伸展型 PoE 	④	ボウル保持	ガラス製ボウルにあずき約200gを入れ、机上に提示する。「このボウルを片手で1回で持ち上げ(持ち直しをしないの意)、5秒間空中に保ってください」。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	握力把握一遠位型 PoD 	⑤	事務鋏使用	事務ハサミを対象手の前に、また紙片(縦中央に折り筋を入れておく)をもう一方の手の前に、ともに空中に呈示する。「この縦線に最初の切り込みを入れて下さい」。必要なら紙を固定してやってよいが、その旨を付記する。☆この直後に、C.手の動きのパターン②を実施するとよい。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり <input type="checkbox"/> 非対象手の固定の補助あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり <input type="checkbox"/> 非対象手の固定の補助あり

フォーム		No	課題名称	物品提示と検査指示	対象手	右手	左手
						本来の(利き側・非利き側) (健側・患側) (優位手・非優位手)	本来の(利き側・非利き側) (健側・患側) (優位手・非優位手)
中間把握系	側面把握 Lat 	⑥	鍵使用	南京錠をツールボックスIの錠孔にさして施錠した後、鍵を空中に提示して言う:「この鍵を使って錠を開けてください」。錠の向きは適宜変えてよい。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	三面把握 Tpd 	⑦	鉛筆使用	紙片を机の上に置く。空中で、対象手の前に鉛筆を呈示して言う:「ここに名前を書いて下さい」。必要なら紙を固定してやっつてよいが、その旨を付記する。 ☆同時にB2.非把握のフォーム③を行うとよい。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり <input type="checkbox"/> 非対象手の固定の補助あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり <input type="checkbox"/> 非対象手の固定の補助あり
	三面把握一垂型 I TV I 	⑧	テーブルスプーン使用	広口瓶(③)で使ったものの中にあずき約200gを入れ、対象手前方の机の上に置く。次にボウル(④)で用いたものを正面机におく。テーブルスプーンを対象手の前に空中に呈示して言う:「これであずきをすくってボウルに移してください。3回くりかえしてください」。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	三面把握一垂型 II TV II 	⑨	箸使用	箸1膳(割り箸は不可)を先端が閉じたV字型にして空中に提示する。「この箸をもって、3つ数える間そのまま置いて下さい」。☆この直後にC.手の動きのパターン⑩を実施するとよい。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
精密把握系	並列軽屈曲把握 PMF 	⑩	ペットボトル把持	ペットボトル1本(水200cc入り)を机の上に置く。「このボトルから飲むまねをしてしてください。3回くりかえしてください」。☆同時にC.手の動きのパターン⑥も実施するとよい。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	並列伸展把握 PE 	⑪	トイレトーパーの使用	トイレトーパー適量を折り重ねたものを空中に差し出し、「これを普段使うときのように持ってみてください」と言って空中に保持してもらい、3つを数えてから、「手のかたちを変えないで下さい」と言いおいてパーパーを引き抜き、手のフォームを観察する。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	包囲軽屈曲把握 CMF 	⑫	広口瓶把持	広口瓶(③)で使ったもの、中にあずき。蓋をしておく)を机上のやや遠い位置に置く。「上から蓋だけを持って、自分のすぐ近くへ移動させてください」。☆同時に、C.手の動きのパターン①に記載する。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
	指尖把握 Tip 	⑬	あずきつまみ	広口瓶の本体(⑫)で使ったもの)の蓋を裏返して(内側が天)机上正面におき、その上にあずき3粒を載せる。「これを1粒ずつ親指と人差し指を使って、瓶の中に移してください」。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり
拇指不関与系	内転把握 Add 	⑭	カード挟み	空中に、示・中指ではさみやすい位置にカードを1枚を提示して言う:「このカードを人差し指と中指の間に挟んでもってください。3つ数える間そのまま置いてください」。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり <input type="checkbox"/> 物品の位置補正あり

B. 手のフォーム B-2 非把握のフォーム

氏名:	記録日:	記録者:
-----	------	------

◆用意するもの: ①「検査指示」欄に示してある物品(一部は毎回事前調達)、②マット(習字用フェルト)。

◆検査者と被検者の標準位置(全項共通):特に指定がない限り、被検査者はテーブルに向かって椅子に腰掛け、対象手を楽な肢位で机におく。検査者は、被検者のほぼ横に自分の位置を決める。

◆物品提示と検査指示:

1)物品提示位置は、特に記載がない場合は正面机上とする。

2)被検者は、一度触れた後、位置補正をしてよい。

3)被検者はももとの習性により、期待と異なるフォームを示すことがある。その場合は検査者が見本のフォームを示して同じようにできるかを確認し、「見本提示あり」に✓を記入する。

◆成績判定: 対象手のフォームについて以下の判定を行う(各課題の正常フォームを熟知していない検査者は、あらかじめ自分および他の健常者の正常フォームを仔細に観察し、目を慣らしておく必要がある)。なおフォームの定義は『鎌倉矩子(1989)、手のかたち、手のうごき、医歯薬出版』による。

Good (G): 正常またはほぼ正常なフォームを安定して維持できる

Fair (F): フォームに僅かな歪みがある、またはフォームの維持に努力を伴うが、機能に実用性がある

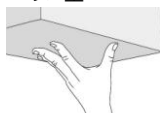





Poor (P): フォームの歪みが著しい、またはフォームの維持が困難であり、機能に実用性がない

Trace (T): フォーム形成の動きがある程度認められる

Zero (Z): Traceのレベルに達しない

◆観察所見: 文章で記述。図の欄にも適宜加筆する。

* 優位手とは被検者がもっとも使いやすいと感じる方の手

フォーム		検査課題		対象手		成績判定と観察所見	
						右手	左手
						本来の(利き側・非利き側) (健側・患側) (優位手・非優位手)*	本来の(利き側・非利き側) (健側・患側) (優位手・非優位手)*
ろうと系	朝顔型 Bell or スズラン型 Small Bell 	① 荷物の押し上げ	ボックス1を机上に置き、「この箱を頭より高い棚に載せるつもりで下から押し上げてください」と言い、底面を押し上げる手のフォームを観察する。他方の手の使い方は問わない。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	
					凸面系	やつで型 Maple or へら I 型 Spatular-1 	② しわ伸ばし
平面系	平板型 Plate or へら II 型 Spatular-2 	③ 紙押さえ	☆B1.把握のフォーム⑦に続いて実施。 消しゴムを非対象手に渡し、「この字を消して下さい」と言って、そのときの対象手のフォームを観察する。	合片は両側(必要な場合)			
					凹面系	平板特殊型 Plate-Var. 	④ 定規押さえ
凹面系	スプーン型 Spoon or やね型(閉じた凹面) Roof 	⑤ あずき掬い	被検者は立位(立位困難な場合は座位とする)。ガラス製ボウル(把握のフォーム④で使用)にあずき約200gを入れたものを机上、正面手前に、もう1つの同寸のボウルをそれより遠方の机上におく。「両手であずきを掬って空のボウルに移してください」。必要なら3回くり返させる。	両側(同時)			
					凹面系	半球型 or 扇型(ひらいた凹面) Bowl or Fan 	⑥ ボウル支え(片手)

フォーム	No	課題名称	物品提示と検査指示	対象手	右手	左手
					本来の(利き側・非利き側)	本来の(利き側・非利き側)
					(健側・患側)	(健側・患側)
					(優位手・非優位手)	(優位手・非優位手)
(凹) 段違い型(ねじれた凹面) Torough 続 面 系	⑦	両手支え	ツールボックス I (①で使ったもの) を正面机におく。「このツールボックスを両手で抱え上げ、3つ数える間維持してください」と言い、左右それぞれの手のフォームを観察する。(☆通常のフォームは⑧または⑦、左右いずれかの手が⑧または⑦であれば見本提示はしなくてよい。)	両側 (同時)	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
	⑧	〃			G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
鉤系	⑨	引きはがし	ツールボックス I (①で使ったもの) の留め金をかけ、机の上に、留め金の面が対象者からみて向こう側になるように置く。「この留め金を外してください」。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
	⑩	吊り下げ持ち	ツールボックス I (①で使ったもの) のハンドルを垂直に立て、対象手側の床の上に置く。「このハンドルに手をかけてツールボックスを吊り下げてください。3つ数える間そのまま置いてください」。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
深屈曲系	⑪	手袋脱ぎ	軍手を両手にはめさせた後(手伝ってもよい)。「手袋を脱いで下さい」と言い、拇指を差し込んで手袋を脱ぐかを見る。口を使うことを禁じる。 ☆C.手の動きのパターン③と同時に調べるとよい。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
塊り系	⑫	肩たたき	「拳を作って、かるく机を叩いてください。3回叩いてください」。(どの部分で打っても可。)	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
	⑬	輪くぐり	ロープで作った輪を非対象手に手渡し、「これを腕輪だと思って反対の手にはめてください」という。 ☆対象手がくぐり抜けることのできないサイズの輪を選んで使う。☆非対象手の役割は検査者が代行してよい。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
突起形成系	⑭	母指つきだし	1枚の紙片(A5版)を置き、「拇印を押しとぎのときにこの上に親指の先端を押しつけて下さい」。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
	⑮	キー押し	電卓を机におき、「これから私が言う数字を押して下さい。2、4、9。」。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
	⑯	ピストル	「手でピストルのかたちを作って下さい」。	片側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
補・単指分離	⑰	中指分離	爪切りを非対象手に持たせる。「この爪切りでこの(=対象手の)中指の爪を切るつもりで、指を浮かせてみせて下さい」。☆爪切りを持っていない場合には検査者が持ってもよい。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
	⑱	環指分離	爪切りを非対象手に持たせる。「この爪切りでこの薬指の爪を切るつもりで、指を浮かせてみせて下さい」。☆爪切りを持っていない場合には検査者が持ってもよい。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり
	⑲	小指分離	爪切りを非対象手に持たせる。「この爪切りでこの小指の爪を切るつもりで、指を浮かせてみせて下さい」。☆爪切りを持っていない場合には検査者が持ってもよい。	両側	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり	G F P T Z <input type="checkbox"/> 見本提示あり